

令和2年度決算の概要について

令和2年度決算は、令和3年5月26日開催の評議員会・理事会において所要の手続きを得て承認されました。

以下に掲げる決算の概要は、学校法人会計基準に基づき作成した令和2年度事業活動収支計算書における収入・支出及び貸借対照表における令和3年3月31日現在、保有する資産、負債及び純資産額について前年度決算額と比較して説明したものです。なお、説明上の金額表示は、100万円未満を切り捨てています。

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、本法人が教育事業として当年度実施した教育活動収支、教育活動外収支を経常的なものとして、また特別収支を臨時的なものとした3つの活動区分に集計される事業活動収入と事業活動支出の内容及びその均衡状態を明らかにするものです。

1. 教育活動収支

収入内訳では、収入全体の8割を占める学生生徒等納付金が、国の入学定員抑制政策による学生数の減少から対前年度1.1%減少し、157億3,400万円となりました。經常費等補助金では、国及び東京都から合計で18億8,000万円の交付を受けました。令和2年度は、コロナ禍における学納金納入者の家計困窮度を踏まえた国の新たな修学支援（奨学金）制度により4億4,000万円の追加交付を受けています。その他の収入は、合計で14億2,500万円となりました。内訳は、入学検定料を主とした手数料で3億9,200万円、寄付金（現物寄付を含む）で1億200万円、付随事業収入では、学生寮運営事業、本学研究所等が行う学外企業等からの受託事業並びに地域交流に向けた生涯学習の公開講座等による収入で、コロナ禍による事業の休止等による減収から合計で1億5,100万円となり、雑収入では、学内施設設備の利用料及び退職金支出に相応する退職金財団等からの交付金など合計で、7億7,800万円となりました。これらにより教育活動収入合計では、対前年度1.4%増加し、190億4,000万円となりました。

支出内訳では、人件費で教職員給与等に83億3,900万円、役員報酬、年金、退職金及びアルバイト等賃金合わせて3億1,400万円。加えて将来の退職金支払いに備えた退職給与引当金繰入額6億9,400万円を計上した結果、合計では、対前年度3.9%増加し、93億4,800万円となりました。教育研究経費では、新型コロナウイルス感染症予防策として国の緊急事態宣言による活動自粛から、当年度計画した事業の多くが実施の見送り、中止を余儀なくされ支出は減少しました。一方、対面授業に変わるオンライン授業対策として、学生生徒の自宅におけるインターネット環境整備を支援するため、休学者を除く全ての学生生徒に対し一人当たり8万円の返還を求めない奨学金と

して総額約 11 億円の支出を計上しました。その他建物・構築物・教育研究用機器備品等に係る一年間の減価償却額を加え、教育研究経費総額では、対前年度 12.8%増加して、68 億 1,500 万円となりました。

管理経費では、学園広報及び学生・生徒の募集事業等の遂行に要した経費と減価償却額との合計で、対前年度 1.3%増加の 14 億 2,600 万円となりました。また学生生徒等納付金の未収入金からなる徴収不能額等では、コロナ禍における国の修学支援制度及び国士舘大学教育後援会からの奨学事業に向けた寄付金、併せて臨時的措置として学則に定める学生納付金の延納期限を更に延期したこと等による未納者数の減少から、対前年度 47.7%減少して 4,600 万円となりました。これらにより教育活動支出合計は、対前年度 6.7%増加し 176 億 3,600 万円となりました。

以上の結果、教育活動収入合計額から教育活動支出合計額を差し引いた教育活動収支差額は、対前年度 37.2%減少しましたが、14 億 400 万円の収入超過となりました。

2. 教育活動外収支

教育活動外収支では、収入で、保有する有価証券等の受取利息・配当金が減少して 1 億 6,200 万円に、支出では既存の借入金利息に 3,200 万円を計上した結果、対前年度 28.4%減少しましたが 1 億 2,900 万円の収入超過となりました。

3. 特別収支

当年度の臨時的な要因によるものとした特別収支の差額では、対前年度 80.3%が減少しましたが 3,300 万円の収入超過となりました。

内訳は、保有する有価証券の売却額が帳簿価格を超えた資産売却差額に 100 万円、その他の特別収入では、学園の施設設備の改善を用途指定とする寄付金で 1,400 万円、現物寄付では、科学研究費等で購入した備品等の寄付ほかで 100 万円を、施設設備補助金では、私立学校情報機器整備費（遠隔授業活用推進事業）補助金ほかで 1,000 万円を計上し、また前年度における減価償却期間の一部修正に要した過年度修正（収入）額として 600 万円を計上して、その他の特別収入合計では 3,300 万円となりました。

特別支出では、当年度における「物品の不用決定」、「図書を除却」等による資産処分差額合計で 200 万円となりました。

以上の 3 つの区分における収支差額を合計した基本金組入前当年度収支差額は 15 億 6,700 万円となり、同 3 区分の収入の合計額である事業活動収入 192 億 3,800 万円を分母とする事業活動収支差額比率（当年度における経営の採算性を示す指標）は 8.15%となりました。

この差額から保有する資産の将来における維持確保に向けた基本金として合計 19 億 5,900 万円を組み入れた結果、当年度収支差額は 3 億 9,200 万円となり、前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は、マイナス 213 億 3,800 万円となりました。

貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末の資産、負債、純資産の状態を表示しています。

資産の部では、固定資産で 541 億 2,600 万円となりました。有形固定資産の内訳は、土地で 111 億 100 万円、建物は減価償却を主要因として対前年度 10 億 6,700 万円減額して 206 億 4,400 万円、構築物では、楓の杜キャンパス及び多摩キャンパス拡充に向け 2020 年度に取得した南野地区教育研究活動用地の環境整備等を含む 29 億 6,600 万円、教育研究用機器備品及び管理用機器備品並びに図書を整備には合計で 64 億 700 万円を計上しました。建設仮勘定は、楓の杜キャンパス完成に伴い適正科目に振り替えたことにより計上していません。特定資産は、奨学基金の充実に向けた第 3 号基本金及び退職給与引当金の一部並びに累積する減価償却費に充当する運用資産の合計で対前年度 2 億 100 万円増額して 26 億 7,100 万円となりました。その他の固定資産では、施設利用権として多摩丘陵病院へ 2 億円を支出し、有価証券で満期償還等により対前年度 37 億円が減少して 98 億 9,900 万円になるなど合計で 103 億 3,200 万円となりました。流動資産は、計上した 3 月 31 日から起算して 1 年以内に現金化される資産です。対前年度合計で 48 億 4,300 万円増加し、237 億 600 万円を計上しました。

以上の結果、資産の部は、対前年度 12 億 5,800 万円増額して 778 億 3,200 万円となりました。

負債の部の固定負債では、建物等建設資金に充てた長期借入金の計画返済の結果、対前年度 5 億 8,500 万円が減少し、また長期未払金及び退職給与引当金合わせて 6,800 万円が減少したことから固定負債合計では 79 億 200 万円となりました。

また、流動負債では、長期借入金の内から翌年度返済予定とする短期借入金が対前年度 2,700 万円減少し、取引業者への（前年度事業経費）未払金及び次年度資金となる学納金等の前受金に国士舘大学教育後援会会費及び高等学校等の修学旅行費等の預り金を合わせて 56 億 7,700 万円となり、負債の部合計では、対前年度 3 億 800 万円減額の 135 億 8,000 万円となりました。

純資産の部は、資産の取得源泉を自己資本として基本金と繰越収支差額で構成されています。基本金では、第 1 号基本金に、借入金の返済額及び機器備品等の購入額として本年度に 19 億 5,800 万円を組み入れ、第 3 号基本金では、国士舘奨学基金として 100 万円を組み入れ、第 4 号基本金では、恒常的に保持すべき資金として前年度同額を計上し、基本金合計では、対前年度 19 億 5,900 万円増加して 855 億 9,000 万円となりました。

また、繰越収支差額は、事業活動収支計算書における翌年度繰越収支差額と同額で、マイナス 213 億 3,800 万円となり、基本金及び繰越収支差額を合計した純資産の部は、前年度末より 15 億 6,700 万円増加して 642 億 5,200 万円となりました。

この結果、負債及び純資産の部の合計は、前年度より 12 億 5,800 万円増加して資産の部と同額の 778 億 3,200 万円となりました。